

講義名	アジアビジネス論			授業形態	
担当教員	ギミレ アニル	開講期・曜日・時間	後期 金曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	MAN280

主題と概要

本講義では、近年急速に発展しているアジアビジネスの特徴を多角的な視点から考察する。アジア各国がこれまでに達成してきた経済・ビジネスの発展過程を概観し、それぞれの国や地域の特徴を踏まえながら分析を行う。また、アジア各国の文化的背景がビジネスや市場にどのような影響を与えているのかについても具体的な事例を通して学ぶ。さらに、経済発展の歴史的過程を出発点として、域内経済統合や国際分業の実態、現代のビジネス環境における課題について幅広く理解する。これらを踏まえ、アジアビジネスのこれまでの発展だけでなく、今後の可能性と課題についても検討し、将来の展望を考察する。

到達目標

1. アジア各地域の経済発展の過程と特徴を理解する。
2. アジア域内の経済統合や国際分業の仕組みを具体的に説明できる。
3. 文化的・社会的背景がアジアのビジネス活動に与える影響を理解する。
4. 日本とアジア諸国のビジネス環境を比較し、その特徴を説明できる。
5. アジアビジネスの現状と課題について分析的に考察できる。
6. アジア市場の将来の可能性と課題について論理的に議論できる。

提出課題

- ・授業中に課題を出し、次回授業時に提出してもらいます(2回予定)。
- ・学期末レポート
- ・学生をグループに分け、各グループでアジアビジネスに関するテーマを設定する。最終回において、設定したテーマに基づきアジア市場を対象としたビジネスプランについてグループごとにプレゼンテーションを行う。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

授業中に課題やレポートの採点が終了した後、学生に提出を求めた課題について解説を行う。

評価の基準

- ・授業中の課題：20%
- ・レポート・課題：30%
- ・ディスカッション・プレゼンテーション：50%

履修にあたっての注意・助言他

毎回授業に出席し、遅刻・欠席しないこと。授業中は私語を慎み、積極的に取り組むこと。
 積極的な発言を歓迎します。以下のような参加を期待しています。
 ・最新のビジネスに関連するニュースの紹介
 ・異なる観点からの意見の提示
 ・日本企業と比較した海外企業の事例紹介
 本講義では、対話を通して理解を深めることを重視します。必要に応じて動画を視聴し、議論を行いながら、クラス全体の学びをより豊かなものにしていきます。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.現代アジア経済論：「アジアの世紀」を学ぶ。	遠藤環・伊藤亜聖・大冢啓一郎・後藤健太	有斐閣ブックス	2970	9784641184428
.アジア開発史：政策・市場・技術発展の50年を振り返る。	アジア開発銀行	勁草書房	4400	9784326504848

その他

毎回の授業では、授業内容に関するレジュメを配布します。あわせて、アジア市場に関する最新ニュースや消費文化に関する参考資料も提供します。また、必要に応じて動画を利用する場合があります。

授業計画

1. イントロダクション：アジアビジネスを学ぶ意味と全体像(内容：授業の進め方/評価方法/アジア主要国の経済規模・人口の概観)
 予習：中国・インド・ASEANのGDP/人口を調べ、関心国について「有名企業」「よく買われるもの」を整理する。(150分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(90分)
2. 東アジアの奇跡と発展モデル(内容：東アジアの発展の特徴、政策と産業化の関係)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
3. 多様な成長パターン：ASEANと新興経済(内容：ASEANの成長の型、産業集積、外資と国内市場)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
4. 南アジアの台頭：インド経済の構造とビジネス環境(内容：産業構造、デジタル化、人材、制度・文化と消費)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
5. 域内貿易と地域統合：RCEP・ASEAN経済共同体の見方(内容：地域統合の目的、関税・ルール、企業活動への影響)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
6. グローバル・サプライチェーンと分業ネットワーク(内容：分業、物流、地政学リスク、脱炭素など近年の変化)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
7. FDI(直接投資)と産業立地：なぜ企業はアジアに投資するのか(内容：FDIの基本、投資先選択、産業集積、リスク)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
8. ODA・JICAと企業進出：開発協力とビジネスの接点(内容：ODAの目的、インフラ・人材育成、官民連携の基本)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
9. アジア市場と文化的多様性：消費者理解の基本(内容：文化と消費、価値観、マーケティング適応)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
10. イスラム市場とハラールビジネス：市場規模と基本ルール(内容：ムスリム市場の見方、ハラールの基本、企業戦略)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
11. 宗教・文化への実務対応：ホスピタリティとサービス設計(内容：ホテル・航空・観光での配慮、情報提供、現場運用)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
12. アジアのデジタル経済とスタートアップ(内容：プラットフォーム、決済、スーパーアプリ、規制と競争)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
13. 都市化と社会課題：ビジネス機会と持続可能性(内容：都市問題と企業の役割)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(120分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(120分)
14. 労働移動と人的資源管理：人が動くアジア(内容：人材獲得、賃金格差、移民政策、現場マネジメント)
 予習：授業テーマに関連するキーワードについて、事前に調べておくこと。(90分)
 復習：講義ノートを整理し、授業内容の理解を深めること。(90分)・最終発表テーマを確定(60分)
15. 総括とグループ発表：アジア向けビジネスプラン(内容：学びの整理、グループ発表、相互フィードバック)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目では、アジア地域における企業経営に関する基礎知識の獲得を促すことができる。
 これは、商学部共通、そして、経営学科の卒業認定・学位授与の方針(DP)の達成に貢献する。
 アジア地域における企業経営に関する基礎知識の獲得を促すことは、日本企業の成長を牽引する原動力として社会に貢献できる学生の育成につながるからである。

経営戦略コースのDPとの関連
 本科目の到達目標を達成することで、「アジア地域における経営の仕組みや組織行動を理解できる(DP(2))」ようになり、また、アジア地域の企業による経営活動や日本企業のアジア進出について、そのダイナミックな変化や今後の可能性を概観することで、「現状分析や今後の改善・解決案を構想する(DP(2))」ための見取り図を提供している。

グローバル経営コースのDPとの関連
 本科目の到達目標を達成することで、アジア地域における「経営の仕組みや組織行動を理解できる(DP(4))」ようになり、同時に、アジア地域の企業による経営活動や日本企業のアジア進出について、そのダイナミックな変化や今後の可能性を概観することで、グローバル規模での企業経営に対する関心を喚起している。あわせて、「現状分析や今後の展望を構想する(DP(4))」ための見取り図を提供している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された課題については、授業内で関連する事例を紹介しながら解説およびコメントを行う。授業内容に関する質問は授業中および随時受け付け、必要に応じて授業内またはキャンバスクロスを通じて回答する。

実務経験の有無及び活用

備考

本授業では、コミュニケーションを重視した授業を行うため、学生には積極的に授業内活動へ参加することが求められる。なお、授業に関する連絡はすべてキャンバスクロスを通じて行う。